

平成30年度
第1回 筑後市総合教育会議録

平成30年10月3日

平成30年度 第1回 筑後市総合教育会議録

| | |
|-------------------------|--|
| 日 時 | 平成30年10月3日（水） 15時30分～17時00分 |
| 場 所 | 筑後市役所 東庁舎3階 302会議室 |
| 参 加 者 | 西田市長、中村教育長、久保教育長職務代理、吉田教育委員、石橋教育委員、齋藤教育委員、森田教育委員会次長、田中総務部長、坂本学校教育課長、豊福企画調整課長、堤学校教育課長補佐、黒田企画政策担当係長、綾部参事補佐 |
| 報 告 事 項 | 昨年までの協議内容に関する進捗状況について |
| 協 議 事 項 及 決 定 事 項 | <p>① 筑後市立小学校再編計画（案）について 特になし</p> <p>② 日本の伝統文化「折り紙」について 事務局でどこまでできるかを検討して進めていく。</p> <p>③ 平成31年度予算編成に関する調整要望事項について (非公開審議)</p> |

田中部長

只今より平成30年度第1回の筑後市総合教育会議を開催する。まずは西田市長から挨拶をお願いします。

西田市長

平成30年度第1回の総合教育会議にあたり、一言申し上げる。

日頃より筑後市の教育行政に尽力頂いている事に、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。さて、地震や台風と昨今自然災害が多発している。6月の大阪の地震では、ブロック塀が倒れて、尊い人命が奪われたということがあった。このことを受けて筑後市では、早急に学校施設をはじめ全公共施設の緊急調査を行ってきたところである。結果としては、4つの小学校で危険ブロック等を確認し、早急に撤去並びに新設対策を行うこととしている。今後とも市長部局と教育委員会が連携しながら、児童、生徒の命と安全を守るための取り組みを進めていく。

本日は筑後市立小学校再編計画案を議題に予定にしている。将来に亘って持続可能な教育環境づくりという基本的な考え方のもと説明会を開催したが、賛否両論の意見を頂戴した。委員の皆様からも忌憚のない意見を今日は聞かせていただきたいと思う。教育委員としての意見を拝聴しながら今後の決定をしていきたいと思うので、最後までよろしくをお願いします。

田中部長

早速、レジュメに沿って進めて行く。3番目の報告事項に入る。昨年までの協議内容についての進捗状況について担当課より報告する。それでは、お願いします。

坂本課長

それでは報告する。1ページとなる。「日本的な言葉遣いを大切に」ということで、昨年度吉田委員の方から大和言葉及び方言というものを子どもたちへ伝えていくという提言があったが、(今回は)方言の方に焦点を当てて、取り組みを進めて行く。

提案では「こういう方言がある」という内容のものを学校内に掲示したらどうかというものである。そこで具体的に何ができるかを検討して、「2 取組の内容」「(1)」「(2)」「(3)」と記載しているが、「(1)」は一つの活用方法として学校の方へ提案させてもらいたいと考えている。

筑後市の方言あるいは使い方の方言50個を選んで、紙にまとめたものがある。それが2ページ、3ページ、4ページとなる。こういう様な具体的な方言

や使い方というものを図書室等の子どもたちの目に触れるような場所に、掲示するということで、子どもたちに方言を伝えていきたいと思う。

それから学校では、小学5年国語科単元「方言と共通後」、中学2年では国語科「方言と共通後」のような単元があるので、その中で今回まとめているような内容の資料も活用できるのではないかと学校へ提案してもらおうと思う。それから総合的な学習の時間でも活用できると思う。

また、配付を予定している資料を基に学校独自の取り組みも当然あっていいと思う。活用例として方言クイズ、方言劇を記載しているが、そのようなものを工夫して活用してもらうことも期待している。そのようなことを教育委員会の中でも、このような内容で検討案ということで出させてもらい、校長会でも検討案ということで諮って、これを補強修正して更に良いものを学校に使ってもらいたいと思う。

田中部長

報告事項としては1点だけである。皆様の方から何か質問や意見があったらお願いします。（構成員からの質問や意見無し）

提言のあった部分はこのようにして進めていく。それでは、報告事項を終え、早速、協議事項に入っていくが、協議事項については座長を市長が行うようになっているので、市長の方から進めてもらいたいと思う。それでは市長よろしくお願いします。

西田市長

協議事項は私の方からとなっているので、進めさせていただく。本日の協議事項は3項目予定されている。まずは「筑後市立小学校再編計画（案）」の協議に入りたいと思う。事務局の方から説明をお願いします。

坂本課長

では私の方から説明させていただく。15ページとなる。今日は筑後市立小学校再編計画（案）に関する説明会アンケート結果を報告させてもらって、その後意見交換という流れで進めさせてもらいたいと思う。

16ページとなる。1番目に説明会・アンケート結果、2番目に今後の進め方を表記している。今後の進め方がポイントになるが、まずはアンケート結果を報告させてもらった後に、今後の進め方を説明させてもらいたいと思う。

17ページとなる。アンケート結果の概要を書かせてもらっている。説明会は保護者会、校区役員会、一般と3種類で行っている。全体合計で21回開催している。区分けでは保護者は就学時前と小学生の保護者である。参加者数は、

記載されているとおりである。その時にアンケートを取らせてもらっている。それとは別に郵送アンケートを行っている。全ての年代の筑後中学校居住者1,200人に送付して、（回収は）7月から8月にかけて行い、525人の回答を得ている。アンケートの内容は説明会に配ったものと同様である。

アンケートの回収数は説明会と郵送分を合わせたら、1,011人となる。

18ページとなる。18ページはアンケートの中味である。問1は回答される方の属性について問うている。問1は居住区、年齢、世帯関連事項を尋ねている。

問2は小学校再編そのものが必要かという問いである。問3は今回提案させてもらっている6小学校を一つにまとめるという案についての意見を受けるという内容である。問4から問7は新しい小学校に期待すること。具体的な項目について聞かせてもらっている。問7は自由記載である。問8から問10は新しい小学校で心配な点についてである。問10は自由記載ということになっている。

今回のアンケートの中で集計しているのは、自由記載以外の分となっており、具体的な数字を見ていただければと思う。

次に19ページとなる。問2が筑後市において小学校再編が必要だと思うか。問3が今回提案の6小学校の再編計画についてどう思うか。問2では「必要である」「必要ない」「わからない」が主な項目であるが、「必要である」50.8%、それから「必要無い」が15.2%、比率でいうと「必要である」が3倍ちよつとの回答となっている。過半数の人が「必要あり」と回答され、「必要無し」の3倍程度となっている。もう一つ確認しておきたいのは、「わからない」が29.7%と約30%となっている。また、説明会ごと、郵送分ごとで集計している。

問3は今回提案の6小学校を一つにまとめることの意味である。「進めてほしい」「進めるのは仕方ない」を合わせた57.6%の方が、前向きな受け止められ方をしている。「中止して欲しい」が20.3%となっている。肯定的な回答との比率では3割弱というところである。「わからない」はかなり減って17.3%で、問2では「わからない」が30%近くあったが、ここでは、ぐっと減っている。「進めてほしい」と「中止してほしい」に振り分けがあっているのかと思うが、説明会の中でいうと、保護者説明会では、「進めて欲しい」「進めるのは仕方ない」の肯定的な回答は61.1%と6割を超え、地域説明会は49.4%と半数を切り、少し色合いが変わってくるし、地域説明会での「中止して欲しい」と回答した方が26.3%と、相対比較で言うると少し増えてくるというものである。

20ページとなる。これも回答された方の年代別に問2と問3を集計したものである。問2の「必要である」を年代別に一覧すると20代～40代までは、半分未満の40%代で推移している。50代以上は半分以上で、特に50代は57.4%となっている。「必要がない」が50代でいうと8.2%、40代で18.3%ということになる。もちろん「わからない」が3割程度あるので、そこでも変わるが、相対的に40歳代は再編自体が「必要である」が少なく、「必要がない」が多くなっており、それとは対照的に50歳代が逆の現象が回答で見られる。それから問3だが、6校統合についても年代別に見ると、やはり40歳代の方が少し否定的な見方をしている方が多いようである。肯定的な回答が53.2%となる。平均よりも少し低くなっている。「中止して欲しい」が総計の20.3%に対して、28.6%と比率が高くなっている。また、30代の方は肯定的な回答が6割程度となっている。50代は56.6%で、「中止して欲しい」は12.3%で、40代の28.6%と比較して低くなっている。50代は前向きに捉えているのかなと思う。

次に21ページとなる。これは校区ごとに問2と問3を見ていったものである。問2の「必要である」の回答率が低いのは水洗校区42.7%、二川校区43.4%に対して、高いのが下妻校区59.8%、古島58.5%、古川が53.0%となっている。「必要ない」を見ると、水洗校区21.6%、二川校区25.2%と平均15.2%より高くなっており、相対的に下妻校区、古島校区が再編について、肯定的な意見が多く、水洗校区と二川校区の方が否定的な見方をしている方が多いという結果になっている。それ以外の校区は、「必要ない」が平均より下回っていて、他の校区は再編に概ね肯定的に捉えている方が多いという結果である。

問3の6校統合の見方についても大きくは変わらないと思うが、やはり水洗校区、二川校区が否定的な意見の方が多結果となっている。特に水洗校区は肯定的な比率が40.0%で、「中止して欲しい」も36.2%と否定的な回答が多いということになっている。二川校区は肯定的な回答が53.5%で、半分以上は賛成されているが、「中止してほしい」が25.8%となっている。やはり否定的な見方をしている方が多い。また、下妻校区が肯定的な意見が多い結果になっている。

22ページとなる。これは問2と問3を保護者で分類したものである。子どもさんが2人以上いる場合は1番年少の子どもさんの区分に分類している。小学生の保護者の分類で見みると、問2は「必要である」54.2%、就学前保護者が45.0%程度と、ここで少し差が見られる。「必要ない」は中高生保護者が2.7%と少ない結果となっている。ただし、「わからない」という45.9%と「必要である」と同じ比率となっている。小学生保護者は再編に必要と考えて

いる方が多いという傾向かなと思われる。

問3のところを見ると、中高生保護者のところが「進めて欲しい」「進めるのは仕方ない」の肯定的な意見が62.1%と1番に多く、「中止してほしい」も13.5%と低くなっており、相対的にも中高生保護者は、学校統合について肯定的に捉えている方が多いという結果となっている。就学前保護者、小学生保護者どちらも55%を超えているので、全体平均と同じぐらいの数値となる。

「中止してほしい」が両方とも25%を超えているので、全体平均より少し多いという結果になっている。

23ページ以降が説明会を行ったときに出された意見・質問の内容をそれぞれの項目ごとに集計したものである。表記しているのは項目ごとに分類して、その中で具体的な意見を件数の多い順に記載している。多いものから見ると「再編の枠組み」で34件ということで、これが1番多かった。6校統合ではなくて2～3校にする意見とか、6校統合するとしても段階を得たが良いという意見があった。それから「適正な学校規模」も多かった。850人という規模が大きすぎるのではないかということに不安に思う方も多かった。それから「通学支援」スクールバスの運行について様々な意見・質問があった。また「地域とのつながり」が18件、小学校が無くなって地域が寂れる事とかの関連の質問・意見があった。「跡地利用」は小学校が無くなった後、どのように活用していくのか点について聞かれる方もいた。

それから27ページ以降は全アンケートの集計結果である。問4以降の「計画している新しい学校に期待するもの」「計画している新しい小学校での心配な点」の結果も表記している。私の方からは以上である。

西田市長

今、事務局から小学校再編計画（案）についてのアンケート結果を中心に説明してもらった。只今の説明に対して質問・意見があれば、受けたいと思う。よろしく願います。

久保委員

アンケート結果についてお伺いする。23ページの「（保護者・役員等・一般）説明会 質問意見の要約・分類」があるが、アンケート項目の問10「その他、新しい小学校で心配な点をお書きください。」、下の「★その他小学校再編に関してご意見等がございましたら、御自由にお書きください。というものは、23ページに反映しているか。

坂本課長

自由記載の部分は集計が間に合っていない。現在集計作業中である。

久保委員

了解。

坂本課長

集計ができれば、ホームページ上で公開させていただく。

西田市長

他にあったら願います。事務局の方から何か補足説明があれば願います。

中村教育長

今の説明でもいいし、前段の説明会資料についてでも結構である。あるいは説明会で聞かれた要約集があるが、私たちがどう答えてきたかということでもいいし、意見をもらいたいと思う。

久保委員

教育長に尋ねたい。説明会会場での雰囲気はどうだったか

中村教育長

保護者説明会、地域での説明会それから校区の役員への説明会の3種で、一つの地域で3回行った。それぞれ特徴があるのかなと思う。

保護者の方は児童数850人ということが不安だとか、適正規模に対する意見があったかと思う。ただ極端にこの提案に反対する意見は少なかったと思う。ただ中には個別的に固守して意見を言われ、同じ方が何度も意見を言われる方はいたが、全体的に反対する意見が少なかったと思う。

総じて保護者説明会では、心配だと感じている方がいた。

行政区長に対しては、地域説明会の持ち方をどうするかということが大きなテーマだった。行政区ごとに説明会をという意見もあったが、結果的には1行政区以外は校区単位で説明会を行うことでまとまった。

質疑応答では、行政区長の地域に対する根強い思いを持たれている方、あるいは市の展望ということで、今回の提案に理解していただける方、また、激しい議論にはならなかったが、双方の意見が出た。校区住民の説明会でも同じような形で、強く反対される方もいた。そのような（強い）意見で、住民の考え方がそちらに向かうのかと思ったが、アンケートの結果で見ると、強い反対

意見があったとしても、比較的冷静に受け止めているのかと思うし、アンケート集約分で説明会分と郵送分にあまりずれが無かったので、私たちの方針を理解してもらっていると感じている。確かにに激しい意見もあった。「何を考えているのか」とか、この中にもあるけど跡地利用のこととか、スクールバス・学童の問題とかが出た。私たちの提案の仕方として、できるだけ本丸の提案をして、本丸の協議をしたいという思いがあったので、そこはまとまってからきちんとやると答えている。そこが不満な方もいたのは事実だが、今回はこのような提案をさせていただいた。

齋藤委員

私は保護者として、アンケートの結果を見ると、すごく分かるなど思うのが、現状を壊すというか、子どもを学校へやっている親御さんとかが、通っている学校の現状が変わるといのはすごく不安があると思う。再編しないといけないといのは分かっていると思うが、不安はすごく大きいものがある。

やはり特に小さい学校とかは、全くもって暮らしの変化から学校生活全てが変わっていくので、親としては本当に不安になっている。また、少人数の学校は、それゆえの良いところがあって、大きな学校には無い良い環境があって、敢えて小さい学校を選んでいるかもしれない。例えば家を建てる時や引っ越すとなった時、なるべく先生が目が届く所がいいという理由で、選ばれている方もいると思うし、おじいちゃん、おばちゃんと触れ合う機会が少なくなっている現状で、先日の下妻小学校の運動会では地域の方と触れ合ういいものを見せてもらった。その様な光景を目にすると私自身も思いが揺れ動く。このような学校がいいなど思うところもあり、その反面新しい学校に変わるとい期待もあると思う。それにどれだけ応えてくれるのか。そこが不安だと思うので、この様に詰めて話し合っていかなければならないと思う。今は必要無い事かもしれないが、いざ統合しなければならぬ事態となった時に、次々に事が進められないので、皆で長い期間をかけて話し合っていくことが、子どもたちにとっては幸せなことだと思う。

アンケートを見て、中高生の親御さんたちの賛成が多いのは、やはり中学校、高校では大きい所で切磋琢磨していかなければならないので、そのような事を経験した親御さんたちが、再編の必要性を感じているのではないかと感じている。やはり未来の学校を期待している部分があるのかと思う。

中村教育長

説明会の中の意見で入学前の保護者からはこの時に入学する、この時に6年生になるとか、そんな時に例えば20人の学級が100人の学年になることが不

安だという意見が出た。方針が決まれば、学校間交流というか、例えば3年間ぐらいかけて、運動会を一緒にやるとか、その様なことは計画すべきだと答えている。

また、学校再編委員会を立ち上げなければいけないと思う。その中で学校間連携を考えていかなければならないし、また、言われた意見の迷いがアンケート結果の「わからない」に表れていると思う。だから計画そのものの展望もわからないし、自分の思いも結論がでないという状況が「わからない」ということになっているのかなと思う。

吉田委員

アンケートの説明を聞いたり、委員の意見を聞いたり私自身心が動く。それで考え方をまとめてきたので、意見を述べさせていただく。小規模校の再編に際しては、賛否両論あると思うが、意見を述べさせていただく。

私は、当該教育員会にお世話になる以前は、久留米大学病院の整形外科技師長として長きにわたり勤務してきた。

今から少し病院の話をする。大学病院を再編後の大きな学校とし、そしてクリニックや医院を小規模の学校として、重ね合わせて聞いていただければ幸いである。

大学病院を受診する患者さんが、非常に多い理由の一つは、大学病院での安心感である。大学病院なら最新の医療を受けることができる。大学病院なら見落としがない。全てが正しいとは言えないが、一理ある。その理由は、医師の数が断然多いこと、そして、それぞれの専門分野の医師が連携していることである。少人数、小規模でのクリニックや医院の良さももちろんある。風通しが良く、なんでも相談できる、アクセスが良い、地域に密着している、もちろん大切なことであるが、より安心感のある大学病院に患者さんが集まってきた。多くの医師が集まり、足りない部分を補い合って、一人の患者さんを治療できる場所だった。確かに関係性は少人数の病院より薄いかもしれない。私自身は患者さんの骨組織がどのような病気であるかを診断する組織作成をしていた。そのため名前と顔が一致しない患者さんもいるが、名前と組織の形は一致する。そして、その専門技術を持っている私に大学中の医師が相談に来た。そのような専門技術を持っている者が、それぞれの分野でいるのが、大学病院である。

学校の先生方にも、技術・技量の差があるのは当然である。テレビドラマのように「私失敗しないので」と胸を張って全ての分野で言い放たれる先生はいない。しかし「この分野なら失敗しません、自信がある」と言える先生たち

はいる。再編により教職員を集約できれば、様々な得意分野を持つ先生たちが、一同に会することができる。

現実的に現代社会は競争社会である。中学校・高校・大学と受験戦争もあるし、社会に出れば、社会の荒波に、揉まれて生きていく必要がある。競争する力を育てるために、まずは学力を底上げする必要がある。

小規模での地域密着の良さが薄くなるかもしれないが、地域の繋がりが薄くなるわけではない。再編により、指導の強化、学力の底上げが期待できると考えている。地域から小学校が無くなる寂しさなどあるとは思いますが、子どもたちのためになることである。以上が私の意見である。

石橋委員

私自身は水田小学校で小さな学校だったけど、結婚して羽犬塚の方へ移った。子どもは羽犬塚小学校で、大きな学校だった。この資料を見ると当時800人だったようである。クラスは3～4クラスあったけど、子どもにとっては、自分のクラスだけである。クラス単位の行動なので、大きい小さいが記憶に残っていない。あまりそのことで不安を感じてなかった様に思う。反対される方は最初からなら抵抗無いけど、途中から変わる事に不安になっていると思う。その辺りのところを丁寧に説明していくことが大切かと思う。

久保委員

小学校再編というのは我々が生まれてから筑後市では経験したことが無いと思う。新しく学校ができた事はあるが、再編は無いと思う。私は高校の教員だったが、2校程に管理職として関わったが、その時に一番抵抗されたのは同窓会だった。アンケートを見て以外と思ったのは50代、60代、70代の人があまり反対していないのがちょっと不思議だった。高校の場合は同窓会の反対で、なかなかうまくいかなかったという話も聞いたし、我々も統廃合でまとめるので苦労した。よく言われたのが、母校が無くなる。母校が無くなっても、その証は残して欲しいというものだった。もしこの計画を進めていくのなら、その辺りのことも考えたらと思う。

西田市長

いろんな意見を皆様方からいただいた。私としては、再編はさせていただかないといけないと思う。このままではいけない。アンケートの結果から見ても再編止む無しという方が多かった。

ただ、市議会の中で言われているのは、6校を1校に統合するのは、大きすぎるといえるのが一つ、スクールバスかれこれ具体的に説明していないのでは

ないかと言われるし、それと跡地利用の事である。ただ方向性が決まらないままでは跡地利用の話はできない。

いずれにしても、丁寧な説明をしていくことは必要と思う。ただ、6校を一つにという計画案を絶対進めていくとは議会でも言っていない。このことを踏まえて新たな再編計画を検討していく。方向性としては、見えてきているのかなと思う。やはり小学校でクラス替えができる規模は必要と言われているので、そこら辺を基準としながら考えていく。新たな再編計画案を作成し、また教育委員会に諮って、意見をもらいたいと思う。ただ、時間はそう無いと思っている。このことについては、今後とも積極的な意見をお願いする。よろしく願います。

坂本課長

今後の進め方について、説明させていただく。16ページである。これは、議会の全員協議会でも説明させてもらっている。2番の(1)で、下から4行目からそのまま読ませていただく。「小学校再編は、市のまちづくりに大きな影響を及ぼす重要案件であり、丁寧に対応する必要があることから、市としては、いただいたご意見を参考にしながら、さらに多くの市民の皆様にご理解いただけるよう、小学校再編計画案について現行案を含めて、あらためて検討することといたしました。」「筑後市立小学校再編庁内検討委員会において、説明会やアンケートでいただいた意見を参考に、「小学校再編の枠組み」や「新小学校の設置場所」を主な課題とし、以下の事項を踏まえて、あらためて小学校再編計画についての現行案との比較検討を行います。」。また「以下の事項」は「今後の児童数・学級数の推計値」「学習環境の充実」「スクールバスの運行」「小学校再編に係るコスト」「その他」となっている。以上のとおり進めていく。

森田次長

只今、学校教育課長が申し上げたことは、教育委員には大まか説明している。このようなことで進めさせていただくのでよろしく願います。

西田市長

一点目の小学校再編計画案については以上のとおりで、引き続き皆様方には世話を願います。それでは、2点目の議題「日本の伝統文化『折り紙』について」を議題とさせてもらいたいと思う。これについては吉田委員から提案があるので、吉田委員から説明を願います。

吉田委員

「折り紙」について提案させていただく。折り紙は指先や脳を使う。資料に書いているが折り紙を折ることにより、①脳がバランスよく働いてくれる、②体の発達や脳の発達にも効果がある、③体幹機能が向上する、④精神的にも効果がある。このようなことから「折り紙」を勧めたいと思う。

方法としては学校内に折り紙のスペースを設け、折り紙の本を置く。作成した作品は教室に持ち帰って展示するのも良いし、廊下のスペースにアートの飾り付けたら、楽しい折り紙になると思う。資料の2枚目からは、脳の名称と折り紙がもたらす効能を表示している。検討よろしく願います。

西田市長

只今、吉田委員から説明をいただいた。只今の説明に対して、意見等を出してもらいたいと思う。よろしく願います。

石橋委員

折り紙はとてもいいと思う。折り紙は知育玩具としても勧められているし、また脳トレとしても流行っているのかなと思う。折り紙は用具とか費用もかからず、すぐに取り掛かれるし、また場所もとらない。いいことが沢山あると思う。また、その中で話し合ったり、頭をくっつけて教え合ったりする事で、親子、友達とのコミュニケーションやスキンシップなどが図れることが沢山あって、いいことだと思う。

齋藤委員

私もすごく勧めたいと思う。やはりおじいちゃん、おばあちゃんとの触れ合いもできる。本当に石橋委員が言った様に、そこまで費用も場所も要らない。また、年代も幅広くできるし、手先を使うこともいいことである。子どもたちが作ったものを学校に展示するのも楽しいことである。大変よいことだと思う。

吉田委員

大学の作業療法士にも相談した。子どもだけでなく、今、高齢者の脳リハビリにも折り紙を勧めているとのことである。これは私が折った蟹である。最初はこうだった。少し上手になってこうなった。（動作を伴う形状）最初はうまくいかなかった。いくらやっても尻尾がうまくいかなかったけど、続けるうちに、上手に折れるようになったし、また、姿勢を良くしないと折れないので体幹にいいと思う。

石橋委員

折り紙だけでなく、いろんな方がいろんなもの作っている。広告紙とか利用して、作っている。そういう方に教えてもらうのもいいかなと思う。

西田市長

グループとかもあるようだ。

吉田委員

私はエンジョイ広場にも関わっているが、その中に折り紙を3回程入れている。その時に講師としてサークルの方からきてもらっている。これもその方に相談して作った。そのような集まりがあるみたいである。

西田市長

サンコアの2階も展示しているか。

森田次長

展示している。人材バンクにも登録してもらっている。いろんな方から声をかけていただき、講師を派遣している。

西田市長

教育委員の意見としては、いいこと尽くめのようだけど、教育長の方から願います。

中村教育長

私も平面を立体にするのが、子ども達の脳トレに良いと思う。実際、素人は折り方の本を読んでも折れない。そのイメージ力がないと折れない。また、もう一ついいなと思うのは、日本人が外国人に日本の文化を手軽に紹介するツールとして折り紙は今注目を浴びている。意外と日本人は日本文化を紹介することができない。そう言った意味で折り紙は有効だなと思う。

この会議で提言していたことが、学校の中で形になっているので、折り紙についても事務局で検討して、例えば人材バンクを昼休みに学校に派遣するような事とか何か形にできるように検討させていただければと思う。

西田市長

折り紙については、委員の方からも推進という意見ばかりだった。教育長の話にもあったように、どこまでできるかとういうことを事務局で検討してもらって、またこの会議で報告させてもらいたいと思う。それで前に進めるということではよろしいか。（一同了承）

平成31年度予算編成に関する調整要望事項について

(非公開審議)

(一同承認)

それでは、今日予定していた協議事項3点については終わった。それ以外に事務局の方からあるか。

豊福課長

事務連絡である。一点目は本日の議事内容については、事務局で議事録を速やかに作成して、一度皆様方へ確認してもらった後に、市のホームページにて公開させていただく。ご協力よろしく願います。次に次回の開催予定だが、平成27年度に策定してもらった教育大綱の期間が来年度の31年度を持って最後の1年間となる。本来であれば前年度にあたる31年度から策定に入るのだけれども、実は市のまちづくり最上位計画である筑後市総合計画も同じ32年度からスタートする。それについては既にこの策定作業に今年度から入っている。この総合計画の教育分野の政策の基本的な考え方や取り組みの方向性とかは、こちらの教育大綱の基本方針と一致しておく必要がある。そのため、大変申し訳ないが少し早い時期の年開けの1月か2月には次の会議を開催させてもらいたい。具体的な日程については事務局で調整させてもらって事務局でご案内するので、よろしく願います。

西田市長

他に質問・意見はないか（無） それでは進行を事務局へお返しする。


田中部長


おかげ様で無事に完了することができた。これをもって今日の総合教育会議は終了する。


以上の筑後市総合教育会議録について、会議の経過を記載し、相違ないことを証明するためにここに署名する。

平成 30 年 12 月 10 日

市長 西田 正治 

教育長 中村 英司 

委員 久保 大 

委員 石橋 厚子 

委員 齋藤 百合 

委員 吉田 和博 